



トッド・ハーグリーブさん
Todd Hargrave

トッド・ハーグリーブ / 外国語指導助手。平成22年8月に本町に着任。英語と日本語を交え、子どもたちに分かりやすく英語を教えている。

〔仁田子区〕

英語を通じ、多くの経験で 自分の世界を広げてほしい

「細かく意味が分からなくても、大体の意味をつかんで英語の授業に取り組んでほしい」と話すのは、町内小・中学校のALETを務めるトッド・ハーグリーブさん。

ALETとは、外国語を母国語とする外国語指導助手のこと。アメリカのミシガン州出身で、日本に住むことに憧れた本町のALETとして来日したのは、平成22年8月。「アニメ、漫画などのポップカルチャーや、侍、忍者などの歴

史」に魅力を感じ、高校3年生のときに日本語の勉強を始めた。「日本語は難しいと聞いていたけど、負けず嫌いだっただけであって挑戦したかった」と話すトッド先生は、大学4年生のときに京都に留学したことで、日本語の力が飛躍的に高まったという。「毎日、日本語のシャワーを浴びたことが良かった」という自身の経験から、「週1回、

長時間勉強するよりも、少しずつでも毎日勉強するほうがいい」と、日々の着実な積み重ねが語学力の向上につながることを子どもたちに伝えている。

初来日は福岡。「日本の都会は、建物が色鮮やかできれいなことと、人ごみでもぶつからずに歩く人たちが印象的。親切な人が多かった」と話す本町については、「都会の人より優しくて、外国人への好奇心が旺盛だから、すぐ仲良くなれた。住んでいると心が温かくなる」と笑顔になる。小学校では、主にゲームなどで楽しく英語に触れさせ、中学校では、発音練習など英語教諭の授業をサポートするようにしているというトッド先生。ALETとして4年目になり、「積極的に授業に参加するようになった」と、子どもたちの変化を感じている。「英語が話せれば、全世界どこにでも行けるようになって、たくさん経験が待っています」と、子どもたちに英語を通じて自分の世界を広げてほしいと願っている。